

《2019 年 4 月幹事会 企画幹事資料》

【議題 6】2019 年度 9 月例会の準備状況

開催日：2019 年 9 月 27 日(金) 13:30～16:30

場所：薬学会館（東京）

講 演	演題・所属・氏名	備 考
一般講演	1) 13:30～14:15 「（仮題）PEG 化遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子製剤 ダモク トコグ アルファ ペゴルの薬物動態」 バイエル薬品株式会社研究開発本部 重見 亮太 先生	済 演題 済 演者 済 ご略歴
	2) 14:15～15:00 「PET によるミトコンドリア機能計測のインパクト」 浜松ホトニクス株式会社中央研究所 塚田 秀夫 先生	済 演題 済 演者 済 ご略歴
特別講演	15:15～16:15 「(未定)」 (未定) 先生	未 演題 未 演者 未 ご略歴
司 会	塩野義	

特別講演：

一般講演の内容はバイオ医薬品及び PET イメージングですので、イメージングによるバイオマーカー研究に取り組んでおられる先生を調査。

候補：間 陽子 先生（理化学研究所 分子ウイルス学特別研究ユニット ユニットリーダー）
「HIV-1 複製を阻害する低分子化合物の開発とそれをプローブに用いた分子イメージング
技術によるウイルス動態の解析」

候補：尾上 浩隆 先生（理化学研究所 分子プローブ機能評価研究チーム チームリーダー）
「再生医療への分子イメージングの応用」

候補：須原 哲也 先生（量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所、
脳機能イメージング研究部 部長）
「PET を用いた抗精神病薬の至適用量設定」

【議題 7】2019 年度 第 42 年会の準備状況

開催日：2019 年 11 月 14 日(木)～15 日(金)

場所：アクトシティ浜松（浜松）

＜本日までご討議頂きたい内容＞

- メインテーマについて
- 各シンポジウムの演者候補について
- 大枠のタイムスケジュールについて
- 展示ブース出展候補会社への声掛けについて
- 2 次会での参加者を集める施策について

メインテーマについて

- 1 案：低分子創薬の新展開
- 2 案：新時代の低分子創薬
- 3 案：低分子創薬の新規アプローチ
- 4 案：低分子への回帰から生み出される新たな創薬

各シンポジウムの演者候補について

＜第 42 年会組織委員＞

シンポジウム 1

- ・金沢大学：加藤 将夫 先生 ・金沢大学：中島 美紀 先生
- ・大日本住友製薬株式会社：中川 徹也 先生
- ・久米 常任幹事、千葉 常任幹事

シンポジウム 2

- ・武田薬品工業株式会社：平林 英樹 先生 ・第一三共株式会社：渡邊 伸明 先生
- ・大阪大学：新聞 秀一 先生 ・久米 常任幹事、千葉 常任幹事

事務局

- ・塩野義製薬株式会社：長谷川、大西 企画幹事
- ・大日本住友製薬株式会社：澤田 企画副幹事

＜第 42 年会組織委員会シンポジウム別 電話会議＞

日時：シンポジウム 1 2019 年 4 月 11 日

シンポジウム 2 2019 年 4 月 15 日

シンポジウムタイトル（仮題）

シンポジウム 1：「低分子創薬の可能性を拓げる新規創薬ターゲット」

シンポジウム 2：「低分子創薬の動態最適化及び DDS 戦略」

発表時間（案）

特別講演：特別講演①60 分、特別講演②40 分

会長講演：40 分

基調講演：35 分

一般講演：30 分

特別講演の演者候補

1. 金井 好克 先生（大阪大学）：アミノ酸トランスポーターLAT1 を標的とした創薬（組織委員、金沢大学、加藤先生から金井先生に講演を依頼して頂いて内諾済）
2. 松本 邦夫 先生（金沢大学がん進展制御研究所）：低分子および環状ペプチドを用いた増殖因子シグナル制御による創薬（組織委員、金沢大学、加藤先生から松本先生に講演を依頼）

シンポジウム 1 の演者候補

基調講演

1. 上杉 志成 先生（京都大学）：ケミカルバイオロジーと生物学の融合による低分子創薬ターゲットの発見と応用（組織委員、金沢大学、加藤先生から上杉先生に講演を依頼、残念ながら都合が合わずご辞退）、演者候補を組織委員の先生方と検討中。

一般講演

1. 須田 仁志 先生（大日本住友製薬株式会社）：核酸をターゲットにした低分子創薬の可能性 ―創薬化学者の立場から―（内諾済）
2. 松田 修一 先生（小野薬品工業株式会社）：ASMS（アフィニティーセレクション MS）を活用した PPI 創薬の現状（内諾済）
3. 演者未定：グリーンファルマを基盤にした創薬オープンイノベーション（組織委員、金沢大学、中島先生から家入先生、大戸先生に若手の先生を紹介頂くよう依頼）
4. 田中 大輔 先生（Exscientia）：「AI：ケンタウロスケミスト」による低分子創薬の加速（組織委員、大日本住友製薬、中川先生から田中先生に講演を依頼）

シンポジウム 2 の演者候補

基調講演

1. 新間 秀一 先生（大阪大学）：3 次元モデル組織を用いた薬物質量イメージング法の開発（内諾済）

一般講演

1. 田中 由香里 先生（塩野義製薬株式会社）：イメージング質量分析を用いた薬効標的的部位における PK/PD 解析（内諾済）
2. 演者未定（武田薬品工業株式会社）：非経口経路による薬物送達方法の検討 又は 演者未定（武田薬品工業株式会社）：中枢作動性医薬品開発における LCMS-based 標的占有率解析法（組織委員、平林先生に 2 演題のうち、1 演題の選定を依頼。）
3. 演者未定（第一三共株式会社）：HER2 抗体と新規トポイソメラーゼ 1 阻害薬 DXd の抗体薬物複合体 DS-8201 の開発における肺がん移行性の最適化（組織委員、渡邊先生に演者の選定を依頼。）
4. 河井 真 先生（塩野義製薬）：新規抗インフルエンザウイルス薬ゾフルーザの創製（内

諾済)

大枠のタイムスケジュールについて

(1日目)					
開始案	終了案	所要時間 (分)	プログラム	備考	
16:00	16:10	10	会長挨拶		
16:10	17:10	60	特別講演①		
17:10	17:35	25	ウェルカムドリンク(ドリンクサーブ)		
17:35	17:40	5	趣旨説明		
17:40	18:10	30	講演予告 part1 杉山会長と演者(7名、各演者:3~5分)		
18:10	18:35	25	講演予告 part2 演者(5名、各演者:3~5分)		
18:35	18:45	10	展示ブースの紹介プレゼンテーション (1社:2分)		
18:45	18:55	10	事務連絡		
18:55	19:20	25	ドリンクサーブ(展示ブース見学)		
19:20	19:30	10	移動		
19:30	21:00	90	意見交換会 (会場:3階チエルシー)		
21:00	22:30	90	二次会 (会場:30階パール)		

(参考) 昨年より開始時間を 30 分早く、二次会の時間を 10 分短縮し、ドリンクサーブの時間を 5 分×2=10 分長く設定することで、昨年より 30 分終了時間を早くした。

(2日目)					
開始案	終了案	所要時間 (分)	演題名	発表者	備考
8:30	9:10	40	特別講演②		
シンポジウム1(仮題「低分子創薬の可能性を拓げる新規創薬ターゲット」)					
9:10	9:45	35	基調講演:アカデミアの先生		
9:45	10:15	30	講演①		
10:15	10:40	25	コーヒーブレイク		
10:40	11:10	30	講演②		
11:10	11:40	30	講演③		
11:40	12:10	30	講演④		
12:10	13:00	50	昼食 (会場:4階平安Ⅲ) 薬物動態談話会からのお知らせ (関連学会、セミナー等)		
13:00	13:40	40	会長講演	杉山 雄一先生	
シンポジウム2(仮題「低分子創薬の動態最適化及びDDS戦略」)					
13:40	14:15	35	基調講演:アカデミアの先生		
14:15	14:45	30	講演①		
14:45	15:10	25	コーヒーブレイク		
15:10	15:40	30	講演②		
15:40	16:10	30	講演③		
16:10	16:40	30	講演④		
16:40	16:50	10	事務連絡		

(参考) 昨年度のプログラム(昨年度の終了時間は17時30分に設定し、実際の終了時間は17時50分過ぎとなった)と比較すると、今年度は2日目の基調講演を一つなくすことで35分短縮、基調講演の一つを一般講演にすることで5分短縮、昼食時に、関連学会、セミナー等の紹介を実施することで(会場側に要確認)10分短縮し、逆にコーヒーブレイクの時間を各5分×2=10分長く設定したので、昨年度より40分早く終了時間を設定することで、時間に余裕を持って進行できる。

展示ブース出展候補会社への声掛けについて

- 昨年度出展企業：株式会社富士通九州システムズ、バイオタージ・ジャパン株式会社、株式会社フェニックスバイオ様、神戸天然物化学株式会社(非会員)、ブルカー・ジャパン株式会社(非会員)・・・5社(2016年6社、2017年3社)

2019年1月25日の1年の予定連絡時に、一般会員には新規を含め、年会のブース出展の検

討を促す記載を実施（庶務対応）。

● 2018 年は別途庶務幹事から以下の会社に個別に連絡（庶務対応）。

- 富士通九州システムズ
- インビボサイエンス
- 日本チャールス・リバー
- パーキンエルマー
- 和光純薬
- 日本ウォーターズ
- サターラ
- オリエンタルバイオ
- イナリサーチ

結果：富士通九州システムズから演題を見てから判断したい旨の連絡あり。その他は反応なし。

備考：2016-2018 に参加経験のあるブース出展会社は以下の通り：フェニックスバイオ、バイオタージ、ネモトサイエンス、LSI メディエンス、新日本科学、富士通九州システムズ、神戸天然物化学株式会社（非会員）、ブルカージャパン株式会社（非会員）

・現状を踏まえまして以下の点について議論したいと思います。

- 2018 年に個別に連絡した企業には、2019 年も同様に連絡する。
- 日立ハイテックとドットマティクスが入会されるので、入会に関する 4 月幹事会の審議結果をお伝えする際に、ブースのご案内もする。
- リピートを期待し、昨年度お試しで出展していただいた企業には、本年度も企業展示の募集が決定次第、個別に連絡する。
- 年会のテーマに関連のある非会員メーカーへ新たにお声掛けする。
- 基本、参加費、展示費を会員と同様に出示していただくことをお願いするが、ブース展示を機に、会員になっていただける可能性もあるので、今年度も「お試し展示」的な進め方をメーカーに提示する（シンポジウム参加の希望がない場合は展示費のみ、など）。

補足：展示ブースについて

- ・会員企業、特に CRO へのメリットを考えて、2015 年より設立しました（正確には、要望があって設定しました）。
- ・費用は、原則、根拠はありませんが、実費+1 万円です。ただ、大手 CRO は、さほどの熱意無く、参加されない傾向です。
- ・さらに、一昨年からは、宣伝のためのプレゼンも加えています。

2 次会での参加者を集める施策について

- 2 次会の参加者がそれほど増えておらず（特に若手の 2 次会離れが目立っている）、今年度はより多く参加していただけるよう施策を考えたい。
- ◇ 終了時間を例年より 30 分早く設定。（30 分早くスタート）

- ◇ 採点付きのカラオケ機を使ってカラオケ大会を開催。上位 3 名に動態談話会より景品を出す（気持ちで良い）。
- ◇ 何かアイデアございませんでしょうか？

【議題 8】報告事項、「電話会議手順書」の記載修正案

2015 年 9 月 24 日に作成された薬物動態談話会 電話会議開催手順の 2. 経費には、「通話料は参加者（各社）の負担とし、フリーダイヤルは使用しない（フリーダイヤルの必要性がある場合は事前に会長の判断を仰ぐこととする）」と記載され、フリーダイヤルは使用しない規定となっています。一方で、大学の先生方に年会のシンポジウムにおける組織委員などをご担当頂いた時に、通話料を自己負担としていて、フリーダイヤルを利用できないのは不便ではと察します。今年度の年会の準備におきましても、フリーダイヤルでないとアクセスできないとの組織委員の先生からの依頼が 1 件ありました。よって、電話会議におけるフリーダイヤルの使用を可とするように手順を変更してはと考えますが如何でしょうか？ご意見をよろしくお願い致します。

以上